２．活力・魅力を創出し、文化が薫る新しいまちづくり

２－１　都市機能（土地利用）の方向性

（１）基本的な視点

誰もが魅力を感じる個性ある都市空間を創るためには、地域資源をいかしつつ、さまざまな好奇心を満たし刺激を与える活動を可能にするという観点から、種々の都市機能の導入を図ることが重要である。

これまでに海外を含めさまざまな都市でウォーターフロント開発が実施されてきており、当初の開発は、商業・業務機能を導入し、観光を組み合わせた集客を目的とした開発が主流であった。最近では、高層マンションなどの居住機能もあわせて導入することにより、常に人で賑わうまちをつくるとともに、低層部は前面道路と一体的に賑わいをもたせることで人の回遊を促すといった内容の開発に変わってきている。

神戸においても、ハーバーランドやメリケンパークの開発では、市民への水辺の開放の他、商業・業務と観光などを主目的としたものであったが、ＨＡＴ神戸では、さらに居住機能の導入が行われた。現在では、ハーバーランドのウォーターフロントにおいても、マンションの建設が進められている。これら、ハーバーランドやメリケンパーク、ＨＡＴ神戸においては、従来からのまちづくりの方向を基本として、新しい要素も加えながら、さらなる活性化を図っていく。

新港突堤西地区やＪＲ貨物神戸港駅跡地などは、都心に近く、港を中心に発展してきた神戸のさまざまな資源に恵まれたポテンシャルが高い地域であり、土地利用転換を通じて次世代につながるイノベーションと新たな活力・魅力が常に生起する神戸の創造性を発信するエリアをめざす。具体的には、港の資源や機能をいかすとともに、多様な創造性の礎となる文化をまちづくりにいかしつつ、神戸の次世代を担うさまざまなクリエイティブな人材の集積・交流・育成を進め、学術・研究機関との融合を図り、新たな創造産業・知識産業を創出していく。あわせて商業・業務・観光・居住機能の導入を図る。

そして、ウォーターフロントでのまちづくりが、都心と相互に相乗効果を発揮し、神戸のポテンシャルをより一層高めることをめざす。

（２）ゾーン設定と各ゾーンの方向性

都心・ウォーターフロントを主な都市機能の方向性をふまえてゾーン設定を行う。図２－１に都心・ウォーターフロントにおけるゾーニングを示す。

都心ゾーンについては、主にウォーターフロントとの関わりを都市機能・景観・回遊性などの観点から検討するため、概ねＪＲ以南の区域と設定する。

ウォーターフロントについては、概ね国道２号以南とし、その特徴や将来の土地利用をふまえて３つのゾーンを設定する。すなわちハーバーランドからメリケンパークの区域を西ゾーン、新港突堤西地区を中央ゾーン、ＪＲ貨物神戸港駅跡地からＨＡＴ神戸の臨海部の区域

を東ゾーンと設定する。

さらに、都心及びウォーターフロントの各ゾーンを相互につなぎ、人の流れの起点・中継点となるゲート空間として、３つの継起拠点（①西継起拠点（駅前広場・デュオドーム（神戸駅南駅前広場地下）、②中央継起拠点（波止場町１番地）、③東継起拠点（旧神戸生糸検査所周辺））を設定する。

継起拠点については、各ゾーンのゲート空間として、魅力ある高質な都市空間として、その活用を図っていく。

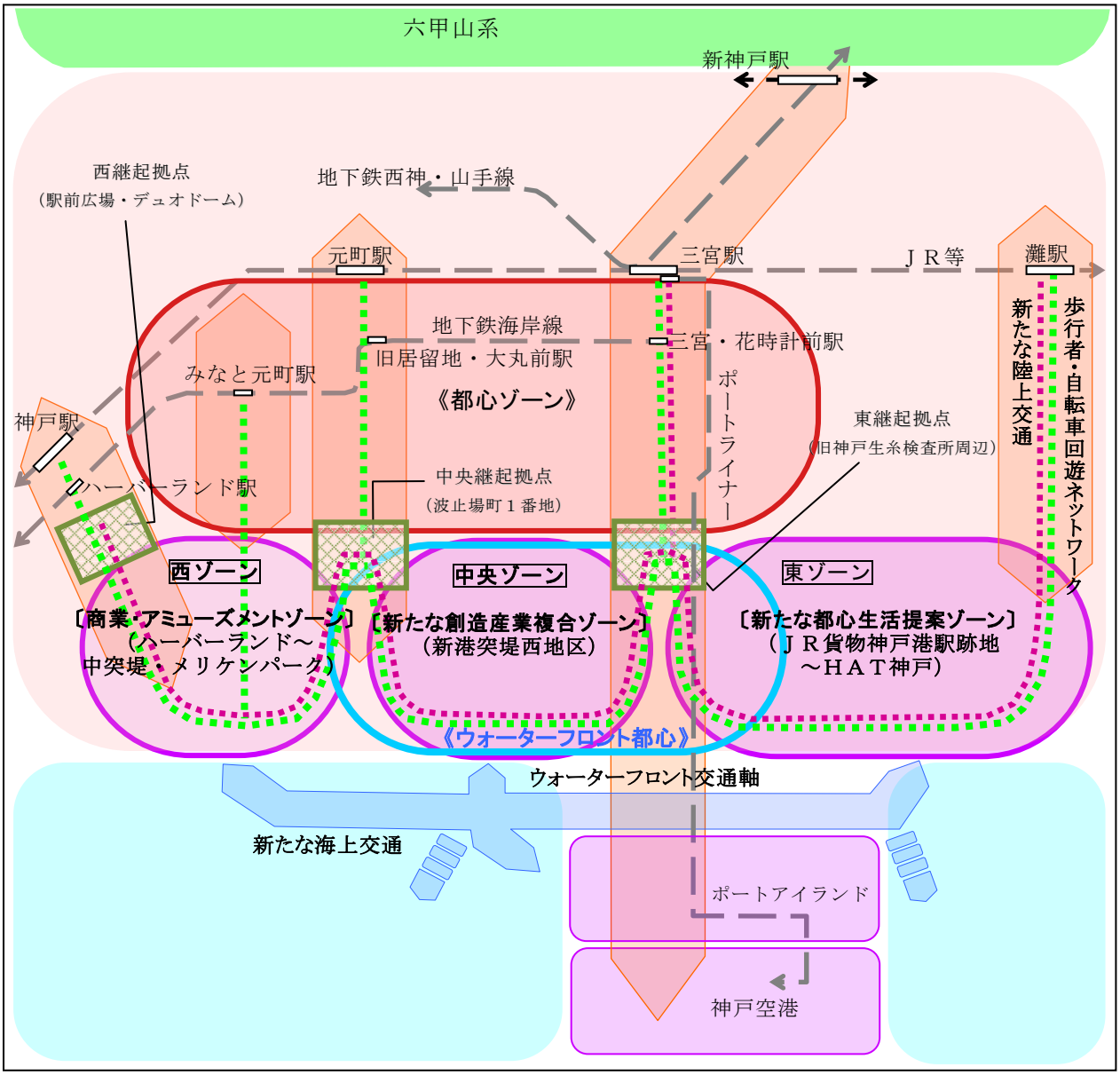

図２－１　都心・ウォーターフロントにおけるゾーニング

①西ゾーン（商業・ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄｿﾞｰﾝ）：ハーバーランド～中突堤・メリケンパーク

図２－２に西ゾーンの都市機能の方向性を示す。

ハーバーランドをはじめ、中突堤やメリケンパークは、早くから親水空間の整備などウォーターフロント開発が行われてきた地区であり、“みなと神戸”を象徴するエリアであるとともに、観光クルージング拠点としても活用されている。

以下の３つのエリアにおいて、将来的にも商業、宿泊、観光、レクリエーション等の機能を中心とした商業・アミューズメントゾーンとし、機能強化を進めていく。

ⅰ.商業・業務複合エリア（ハーバーランド）

ハーバーランドは、神戸駅からの近接性やウォーターフロントの商業施設等の集客性をいかしながら、商業・業務機能の拡充や居住機能などを導入した複合的なまちづくりを進めていく。

既存施設のリニューアルや低未利用地（駐車場等）の有効活用、水際におけるクルーザーやヨット等のビジターバースの設置などを通じて賑わいを創出する。

ⅱ.観光・エントランスエリア（中突堤）

中突堤旅客ターミナルは、新港第４突堤のポートターミナルと並んで神戸港の海の玄関口であり、エリア内に複数のホテルが立地し、遊覧船が発着するなど観光の拠点にもなっている。観光・クルーズ機能の強化を図り、既存施設（中突堤中央ビル等）のリニューアルを行うなど魅力向上に努める。

ⅲ.海辺のシンボルエリア（メリケンパーク）

メリケンパークは、ポートタワーや海洋博物館など“みなと神戸”を象徴するランドマークがある。北側に位置する低未利用地（駐車場）について、民間事業者等の誘致により、シンボリックな商業・業務機能を導入するなど土地利用転換を行い、活性化を図る。

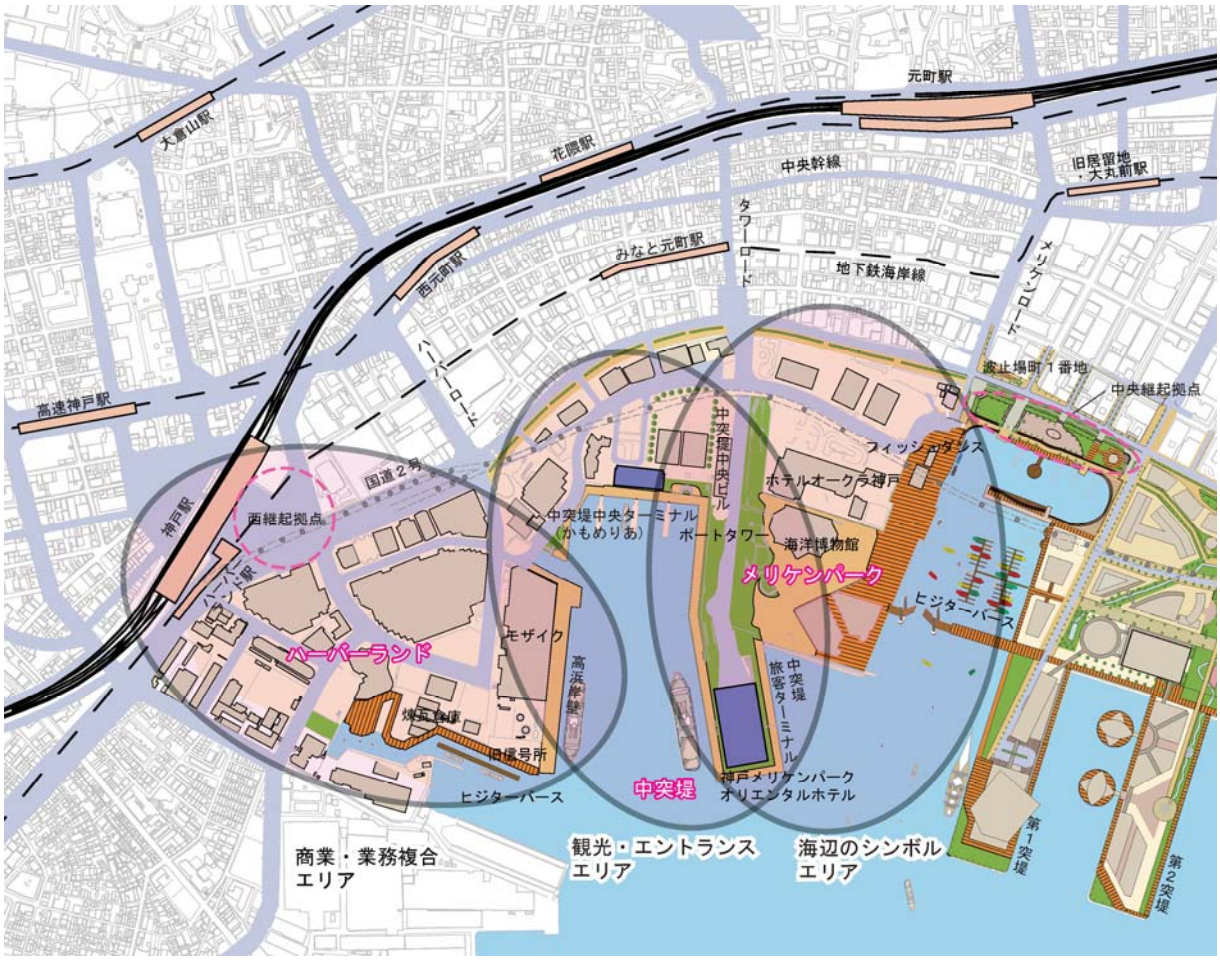

図２－２　西ゾーンの都市機能の方向性

②中央ゾーン（新たな創造産業複合ゾーン）：新港突堤西地区

図２－３に中央ゾーンの都市機能の方向性を示す。

かつての神戸港の拠点であり、現在でも倉庫業が営まれている他、クルーズ船やフェリーのターミナルとして活用されている。

クルーズ船やフェリーのターミナル機能を拡充するとともに、働・学を目的とした企業・大学等の研究開発機能や創造産業の導入を図り、また、商業・業務・観光機能に加えてウォーターフロントという立地をいかした居住機能を導入することで、神戸の創造性を高め、活力・魅力を創出する新たな創造産業複合ゾーンの形成をめざす。

ⅰ.文化・創造産業複合エリア（突堤基部）

広範な意味合いでのさまざまな文化活動や大学等の研究活動が行われ、それが創造産業の新興に寄与するなど、新たな都市機能の創出を図る。また、創造産業を支える、あるいは、リゾート性を有する特色ある居住機能や商業業務機能を導入する。

ⅱ.観光・集客複合エリア（新港第１突堤、新港第２突堤）

市民や来街者等が“行ってみたい、行ってよかった、再び訪れたい”と思えるような文化・集客・観光機能を核とした商業・宿泊施設等を誘致し、人々で賑わ

い、憩い、くつろげる空間を創出する。

ⅲ.海のエントランスエリア（新港第３突堤、新港第４突堤）

クルーズ船やフェリーなどの海上交通拠点としてのターミナル機能を拡充し、市民や観光客が船など、活きた港を身近に感じることのできる空間を形成する。また、海辺の賑わいや海の玄関口として、業務・集客機能を導入する。

図２－３　中央ゾーンの都市機能の方向性

③東ゾーン（新たな都心生活提案ゾーン）：ＪＲ貨物神戸港駅跡地～ＨＡＴ神戸

図２－４に東ゾーンの都市機能の方向性を示す。

ＪＲ貨物神戸港駅跡地は、神戸震災復興記念公園（みなとのもり公園）の他、駐車場などに利用されている。また、ＨＡＴ神戸は、震災以降、大規模工場跡地から業務研究・文化交流・居住等の機能を中心とした土地利用転換が進められている。

ＨＡＴ神戸の大規模な居住機能を中心としたウォーターフロントでのライフスタイルとＪＲ貨物神戸港駅跡地に導入される複合的な都市機能により、新たな都心生活提案ゾーンを形成する。

ⅰ.研究・業務複合エリア（ＪＲ貨物神戸港駅跡地）

ＪＲ貨物神戸港駅跡地では、周辺の都市機能との調和を図りつつ、国際研究開発機能など新たな複合的都市機能の導入を図る。

ⅱ.居住エリア及び商業・業務・文化複合エリア（ＨＡＴ神戸）

ＨＡＴ神戸では、中央には商業施設の他、兵庫県立美術館や人と防災未来センター、ＷＨＯ神戸センター、ＪＩＣＡ兵庫国際センターなど文化施設や国際的な業務施設などがあり、その東西に居住機能を有する。防災機能を高めるとともに、水際線においては親水空間として公園・プロムナードを整備し、海を身近に感じることのできる空間を創出している。引き続き、新しいコミュニティと文化を育むまちづくりや、前面の海の水面活用など賑わいづくりを進めていく。

図２－４　東ゾーンの都市機能の方向性

２－２　ウォーターフロント都心の形成

（１）ウォーターフロント都心の考え方

中央ゾーンである新港突堤西地区と東ゾーンのＪＲ貨物神戸港駅跡地は、既に再生が進む東西のウォーターフロントゾーンの間にあり、陸の玄関口である三宮からも神戸のメインストリートであるフラワーロードで直結されるなどロケーションがよい。また、海や山を見渡せる眺望景観に優れ、櫛型突堤や歴史的建築物など地域資源にも恵まれており、今後の都心・ウォーターフロントのコアゾーンとして高いポテンシャルを有する。

このコアゾーンに新たな都市機能の導入を模索し、既存の都心と相乗効果を発揮する“ウォーターフロント都心”創出のための取り組みを進める。

今後の人口減少が見込まれる中での賑わいづくりや、グローバリゼーションが進む中での神戸のアイデンティティの確立のため、ここでの取り組みが新しいまちづくりのモデルとなり、他都市と差異化された神戸のウォーターフロント開発として発信していくことをめざす。

創造産業・知識産業は、「個人の創造性や技能・才能に由来し、また知的財産権の開発を通して富と雇用を創出しうる産業」、「財やサービスの生産を行うのではなく、知識やアイデア・情報を作り出し、育て、流通させる産業」などと定義されるが、人・もの・情報・文化が行き交う港町に相応しいものと言える。旧神戸生糸検査所の（仮称）デザイン・クリエイティブセンターKOBE への転活用では、創造的人材の育成と集積の拠点をめざした取り組みなどを進めることとしているが、このような取り組みを契機として神戸に相応しい創造産業・知識産業を模索し、その新興を促進していく。あわせて種々の文化活動を進め、港町という開かれた交流の場の機能をいかしながら、職・住・学・遊の新たな価値観を提供するエリアとしていく。

ウォーターフロント都心での基本的な考え方を以下に示す。

①創造産業・知識産業など新しい都市機能をはじめ、さまざまな都市機能を複合的に導入し、都心など他のゾーンとの相乗効果を図る。

②一定の夜間人口を確保するなど、恒常的な賑わいを形成する。

③港の機能、歴史的資源（櫛型突堤や歴史的建築物など）など地域資源をまちづくりにいかす。

④優れた眺望景観、緑を含むオープンスペースの創出に努め、高質な都市環境を形成する。

⑤緑化や風の道の確保など、環境創造の場づくりを推進する。

（２）新港突堤西地区の将来構想

新港突堤西地区で設定した３つのエリアのコンセプトに沿って、図２－５に新港突堤西地区の将来計画（イメージ）を、図２－６に新港突堤西地区のイメージパースを示す。

広場となるオープンスペースを適宜配置し、防潮堤の機能を損なわないように、水際にはできるだけ連続したプロムナードを設ける。また、眺望路や回遊路に配慮しながら、建物を配置し、安全で魅力ある親水空間を創出していく。

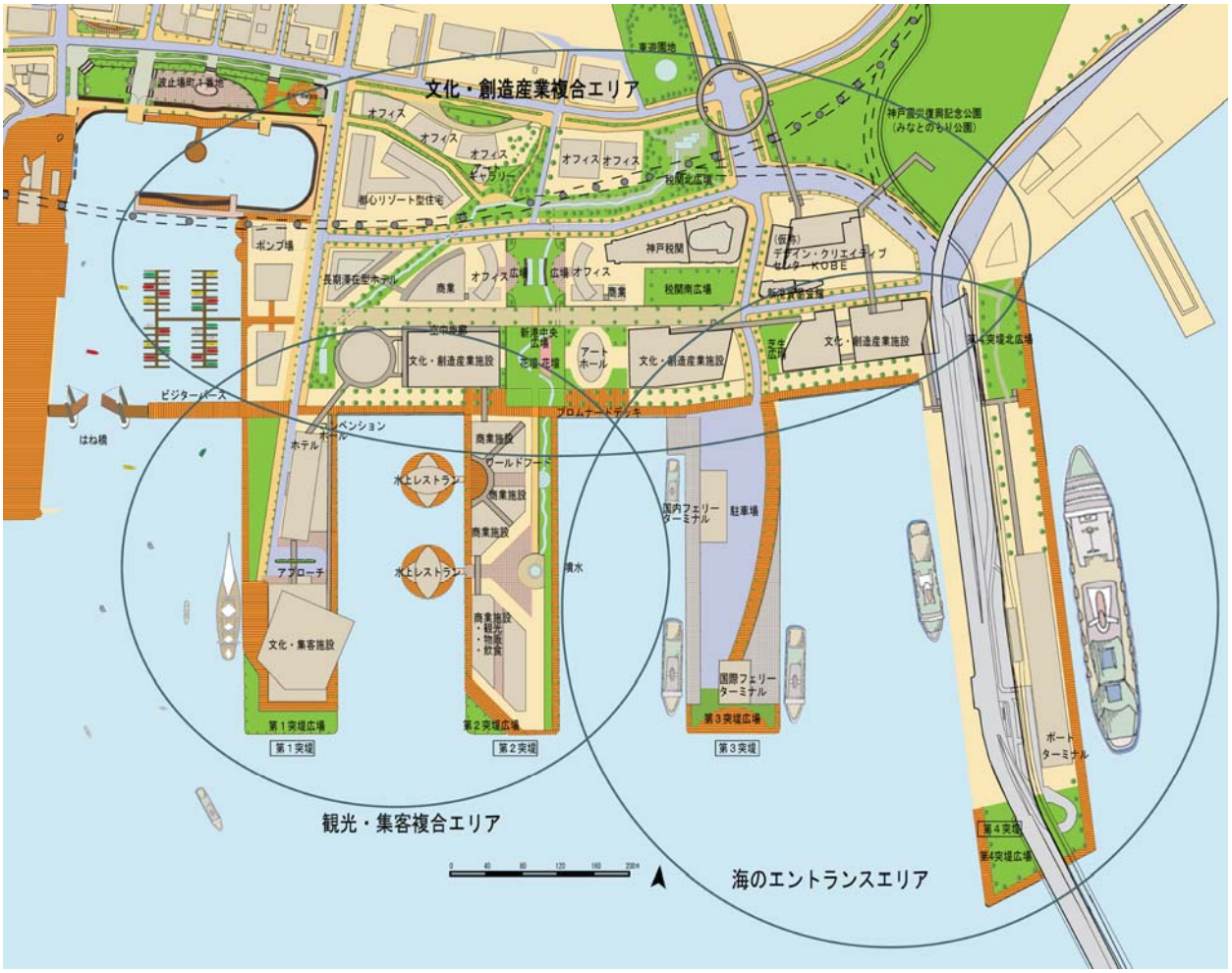

図２－５　新港突堤西地区の将来計画（イメージ）

①文化・創造産業複合エリア（新港突堤基部）

倉庫など歴史的資源をいかしながら、文化芸術関連施設や、デザイナー、アーティスト、イラストレーターなどのクリエイティブな人材の育成、滞在を含めた活動拠点や大学・企業等の学術・研究開発施設の集積を図り、多様な創造産業を創出する。

また、ウォーターフロントを満喫できる都心リゾート型のグレードの高い居住機能の導入を図る。一方、都心に隣接する部分では、旧居留地との一体性を確保しつつ業務・商業施設を配置する。さらに、水面の活用策としてビジターバースを配置し、居住者や来街者などの利用に対応する。

（例）

・創造産業：工房（工芸）、音楽ホール、スタジオ、演劇などの舞台、オフィス（デザイン、ソフトウェア）、美術館、ギャラリー、映画館、アート・音楽教室、専門学校、図書館など

・居住・業務・商業複合、オープンスペース：都心リゾート型住宅、アトリエハウス、長期滞在型ホテル、オフィスビル、雑貨店、会議室、ビジターバースなど

②観光・集客複合エリア（新港第１突堤、新港第２突堤）

新港突堤西地区の中では最も眺望景観に優れており、誰もが神戸の港を満喫し、癒しを感じることのできるロケーションである。シンボルとなる文化・集客施設を核としコンベンション・宿泊・商業施設などを配置する。水面の活用策として水上レストランやマリンスポーツの他、帆船等の係留など本来の突堤としての活用も行う。各施設では防潮堤の外側になるため、高潮等に対する安全性に配慮する。

（例）

・文化集客：シンボルとなる文化集客施設

・宿泊等　：ホテル、コンベンション施設

・観光商業：観光施設、飲食店（レストラン、バー）を含む商業施設

③海のエントランスエリア（新港第３突堤、新港第４突堤）

海上交通のターミナル機能の再配置や強化を図るとともに、誰もが船や海を身近に感じることのできる空間を創出する。国外を含め、第３突堤はフェリーターミナル、第４突堤はクルーズ船ターミナルとして役割分担を行い、それぞれのターミナル施設には誰もが展望できるスペースを設ける。

（例）

・海上交通ターミナル：クルーズ船ターミナル、フェリーターミナル、展望デッキ

図２－６　新港突堤西地区のイメージパース

（３）ＪＲ貨物神戸港駅跡地の将来構想

研究・業務複合エリアとして、研究開発機能・知識産業機能を中心に複合的な都市機能の導入を図る。図２－７にＪＲ貨物神戸港駅跡地の将来構想を示す。神戸震災復興記念公園（みなとのもり公園）のアーバンフォレストとしての機能の拡充・活用や、生田川ランプの機能強化、東西方向の動線の確保を図りながら、周辺土地利用との連携・調和するまちづくりを進める。具体的には、テーマ性・シンボル性の高いエリアとして以下に示す都市機能の組み合わせが考えられる。

①研究開発機能・知識産業機能

例：大学・専門学校等、研究施設、民間研究所、知的集約産業等

②都市型物流・商業・業務等複合機能

例：都市型物流：共同配送拠点、流通加工機能、トランクルーム、宅配便センター

商業・業務：商業や企業・官公庁等

③エンターテイメント・ライフスタイルセンター機能

例：エンターテイメント機能　：スポーツ施設、道の駅（ﾊｲｳｪｲｵｱｼｽ等）等

※　ライフスタイルセンター機能：近隣住民（半径２キロメートルほどの小商圏の住民）を対象とした食・雑貨のショッピングセンター。

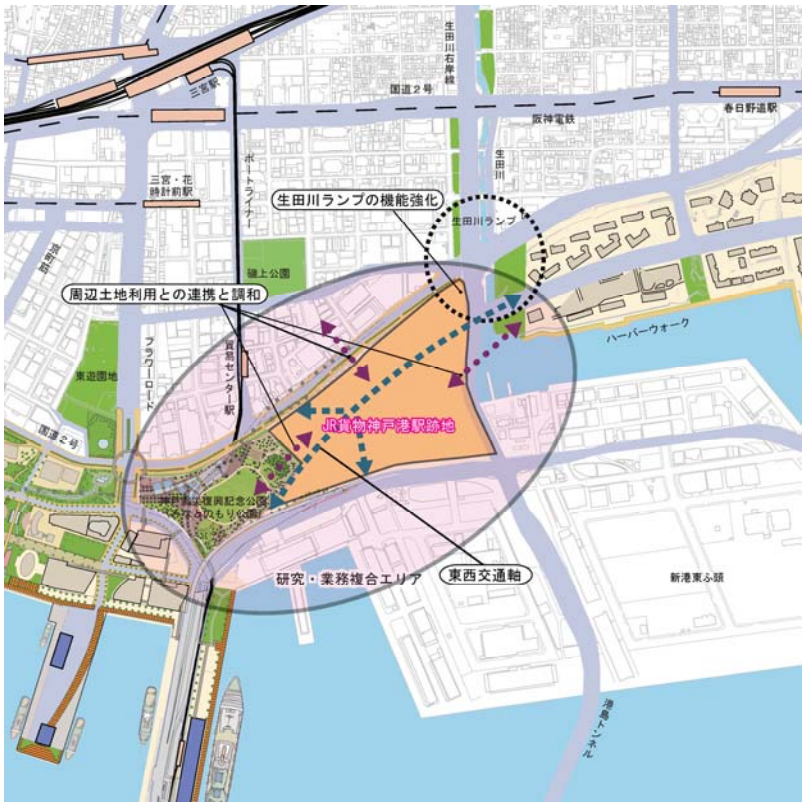

図２－７　ＪＲ貨物神戸港駅跡地の将来構想